Vol.326

2025.5.26

手術支援ロボット「da Vinci（ダビンチ）Xi」での手術を開始しました。

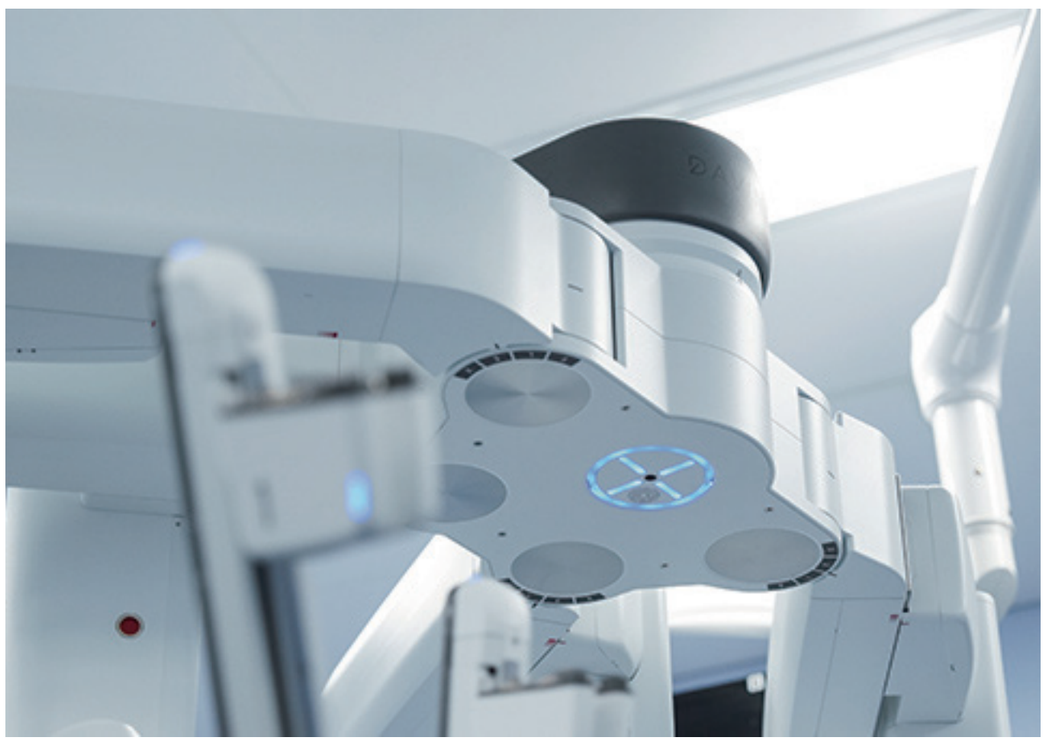
医療法人社団 健育会　理事長 竹川 節男



湘南慶育病院では、手術支援ロボット「da Vinci（ダビンチ）Xi」を導入しました。ダビンチ導入に至るまでの経緯や、医療器具の使用感について、志田 敦男先生にお話を伺いました。







「da Vinci（ダビンチ）Xi」は、全世界で最も実績のある最新の手術支援ロボットです。

健育会グループでは、消化器および泌尿器領域の悪性腫瘍（癌）の切除術をはじめとした手術を行うため、ダビンチを導入しました。

低侵襲の手術を十分な経験をもった医師が行うことで、患者さんにより負担が少ない安全な手術を目指しています。

湘南慶育病院では、慶應義塾大学病院、東京慈恵会医科大学附属病院、横浜市立大学附属病院との連携を強化し「大学病院と同等の手術を地域病院で」をモットーに地域医療に貢献をしています。

今回は、ダビンチを導入するに至った経緯や、実際に使用した所感について、医局長兼外科部長の志田　敦男先生にお話を伺いました。



藤沢市の「健康と文化の森地区」に生まれた湘南慶育病院は、地域医療から質の高いリハビリテーション・慢性期医療に至るシームレスな医療を提供し、また、大学との連携による健康増進・抗加齢医学など最先端の研究を実践することを病院理念に掲げています。

2018年、私はローマのサンジョバンニ病院で、ダビンチの技術を学ぶために留学していました。当時、日本ではロボット手術はまだ保険診療の対象ではありませんでしたが、私はロボット手術の時代が必ず来ると確信していました。
日本の病院では、規模が大きくなるほど専門分野が細分化される傾向にありますが、イタリアでは一人の医師が幅広い手術に対応できる環境が整っています。
当時、私は大学病院で胃がんを専門としていましたが、胃がんのみを専門とする医師になることに疑問を感じていました。
外科医として、様々な疾患を腹腔鏡手術で治療することはできないだろうか。そして、可能であれば、ロボット手術によって、より広範囲な手術を行いたい。そのような思いが募り、湘南慶育病院への赴任を決意しました。

私が湘南慶育病院に赴任した当時、すでに3D画像を用いた腹腔鏡手術が行える環境が整っており、「この病院は先進的な技術を積極的に導入している」と強く感銘を受けたことを今でも覚えています。
おかげさまで、胃がんだけでなく、大腸や胆管など、あらゆる臓器の手術を行える環境に、大きな充足感を感じていました。
しかし、竹川理事長は現状に満足することなく、患者さんにとってより低侵襲で、より正確な手術を提供できる最先端の医療を実現するために、ダビンチの導入を検討されました。



ダビンチが実際に導入されてから、万全の体制で手術に臨むため、看護師は横浜市立大学附属病院へ、私自身は東京都立駒込病院へ手術の見学に行きました。
また、ダビンチのコンソールボックスに搭載されている、4本のアームを操作するトレーニングシステムを用いて、仕事終わりや休日などの時間を利用して、繰り返しシミュレーションを行い、技術の向上に努めました。さらに、2018年に留学先のローマ・サンジョバンニ病院で撮影した手術動画を何度も視聴し、イメージトレーニングを重ねました。

そして先日ダビンチによる一例目の手術が実施されました。
操作に慣れるまでには、やはり少し時間がかかりました。例えるなら、新車に乗り換えた日のような感覚です。昨日まで乗り慣れていた車とは、ボタンの位置やハンドリング、車幅などがわずかに異なり、注意深く運転する時のように、とにかく慎重に、安全第一を心がけました。
患者さんの出血量はわずか10グラムに抑えることができました。経過も非常に良好で、患者さんは手術翌日からリハビリを開始することができました。



手術中の出血量は、患者さんの状態に大きく影響します。
ダビンチは、拡大視野効果に加え、手ぶれ補正機能も備わっているため、鉗子が全くぶれることがありません。
通常の手術では、どうしてもわずかな手の震えが伝わり、ミリ単位の振動が手術に悪影響を及ぼすこともあります。
しかし、ダビンチ手術では、手ぶれが完全に抑えられ、意図した通りに正確な操作ができるため、出血量を最小限に抑えることができるという利点があります。
また、ダビンチは、通常の腹腔鏡手術で使用する鉗子とは異なり、多関節構造により可動域が広いため、より自由自在な操作が可能です。
これらのダビンチの優れた機能が、出血量の少ない手術の実現に貢献していると考えられます。

湘南慶育病院は、急性期医療とリハビリテーションを提供する慢性期医療を併せ持つケアミックス型の病院です。高度な急性期医療を提供すると同時に、必要に応じて患者さんを速やかにリハビリテーションへと繋げることができる点が特徴です。
今回、ダビンチが導入されたことで、湘南慶育病院が目指す、急性期からリハビリまでを途切れなく提供する「ワンストップ医療」というスタイルを、さらに進化させていきたいと考えています。



ダビンチの導入は、患者さんにとってのメリットだけでなく、健育会グループ全体の経営に対しても有効的な面があります。
開腹手術の場合、一般的には術後3日ほどは創部の痛みによって歩行が困難です。
しかし、ダビンチによる手術を受けた患者さんの回復は非常に早く、手術翌日から歩ける方もいらっしゃいます。
患者さんの回復が早ければ、入院期間の短縮、それに伴う医療消耗品費の削減、さらに病床の回転率の向上に繋がります。ダビンチの導入は、より多くの患者さんを受け入れ、手術件数を増やすことを可能にするという利点もあるのです。

また、ダビンチの導入は、医師の採用という面でも良い影響をもたらしています。
近年、外科医を志望する若者が減少している傾向にあります。
しかし、その中でも、ロボット手術に強い関心を持つ医師は少なくありません。「ダビンチを使いこなしてみたい」という意欲を持つ若い医師にとって、ダビンチの導入は大きな魅力となるのです。
実際に、先進的な医療に携われることを理由に、湘南慶育病院へ赴任してきた医師もいます。
さらに、東京慈恵会医科大学附属病院から2名の泌尿器科医を派遣していただけたのも、ダビンチ導入の大きな成果と言えるでしょう。

まもなく泌尿器科においてもダビンチ手術が導入され、前立腺がんの手術が行われる予定です。

前立腺は、骨盤内の非常に狭い空間に位置する臓器です。ダビンチが有する多関節機能は、このような限られたスペースでの精密な手術において、その能力を最大限に発揮します。

今後は、消化器外科だけでなく、泌尿器科におけるダビンチの活用にも注力していきたいと考えています。



私たち外科医にとって、先進的な医療を提供できることは大きな喜びです。

もちろん、医療設備の導入には多額の費用がかかります。しかし、高額な医療機器への投資は、将来を見据えた重要な投資であると考えています。

湘南慶育病院は開院からまだ7年と若い病院ですが、手術件数も外来患者数も年々増加しています。

ダビンチ手術を提供することで、より多くの方々に先進的で安全な医療を受けていただけると認識してもらえれば、患者さんの数はさらに増え、病院もより活気に満ちていくでしょう。

これからも、微力ではありますが、患者さんのため、湘南慶育病院のため、そして健育会グループのために、一層精進してまいります。

湘南慶育病院は、健育会グループで培ってきたリハビリテーションの経験、そして2次救急の経験を存分に活かすことができる病院です。

健育会グループの強みであるチーム医療を活かし、ダビンチによる高度な医療を提供できる病院として更なる飛躍をし、藤沢市の皆さんの健康な暮らしを実現していくことに貢献していきたいと思います。